

指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	津山市三世代研修宿泊施設
(2) 指定管理者	所在地 岡山県津山市山北520 名称 一般財団法人津山市都市整備公社 代表者 理事長 植 月 優
(3) 公の施設の所管部署	津山市産業経済部仕事・移住支援室
(4) 指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日
(5) 評価対象期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	総利用者数 6,679人(前年度 4,147人) 内 訳 施設利用者数 6,671人(前年度 4,137人) 入浴利用者数 8人(前年度 10人)
(2) 事業の内容	津山市三世代研修宿泊施設の管理・運営

3 収支の状況

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 30,222千円 指定管理料収入 8,352千円 利用料・自主事業収入 21,480千円 その他の収入 390千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 40,817千円 主な支出 人件費 17,650千円 需用費 消耗品費等 650千円 修繕費 295千円 光熱水費 4,870千円 役務費 1,423千円 委託料(施設管理) 4,282千円 使用料及び賃借料 1,983千円 原材料費 6,373千円 負担金 4千円 公租公課 1,787千円 管理負担金(事務経費等) 1,500千円

4 総合評価結果

<p>(1) 指定管理者の自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策として、利用者が安心して利用できる施設利用の整備に取組み、岡山県飲食店感染防止対策第三者認証制度に登録申請し認証を得た。 ・食事宴会利用者等に対し、「シン・うまい券」「シン・さくら」「eつやま商品券」「おかやまプレミアム付食事券」といった新型コロナウイルスの影響による経済対策の一環として行われた食事券・商品券キャンペーンに参加し集客に努めた。 ・宿泊利用者の利用促進を目的として、上記の経済対策の一環として行われた宿泊割引や観光クーポンが利用できる「おかやま旅応援割」「津山宿泊観光応援割」「全国旅行支援 岡山ハレ旅応援割」に参加した。 ・季節ごとの料理プランや法事等料理の配達プランを作り食事宴会客等の利用増加に努めた。 ・団体客や遠方からの利用客に対して、マイクロバスでの無料送迎サービスを行った。 ・Facebookを活用して、利用者へ施設や料理、地域の情報等を積極的に発信した。併せて、インターネットの宿泊予約サイトを利用して集客を図った。 ・合宿や宴会等の利用で、キャパシティを超える利用者について、近隣の管理施設（めぐみ荘等）への仲介を行い利用客の利便性の向上や施設の相互扶助を推進した。 ・施設の円滑な管理運営を図るため、津山市加茂郷文化ふれあい施設運営委員会を開催し、地域関係者から事業計画等について助言や提案を受けた。 ・自主事業として、ビアガーデンの開催や加茂谷まつりへの出店を予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。 <p>上記の運営活動により、厳しい経済状況が続く中で、良好に業務を推進したものと評価する。</p>
<p>(2) 市の評価</p>	<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした休業や酒類の提供禁止や時短営業等はなく、令和3年度と比較して利用者数は+2, 532人（約61%増）、利用料・自主事業収入は、+6, 393千円（約42%増）と持ち直しが見られた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く、令和元年度と比較して、</p>

利用者数は、▲368人（約5%減）、利用料・自主事業収入は、▲9,294千円（約30%減）とまだまだ感染症拡大前の水準には及ばない。さらに、近年の電気料金や食料品などの高騰も重なったこともあり、収支は▲10,595千円となり、施設の管理運営自体が厳しい状況にある。

一方で、「シン・うまい券」「シン・さくら」「eつやま商品券」「おかやまプレミアム付食事券」、おかやま旅応援割「津山宿泊観光応援割」「全国旅行支援 岡山ハレ旅応援割」といった経済対策の一環として行われたキャンペーンに参加し集客に努める共に、来館して食事することができない利用者への持ち帰り・配達弁当やアルネ地域交流センターの厨房を借りて調理したお花見弁当を販売するなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響がある厳しい状況下においても安定した管理運営を継続しようとした点は評価できる。

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症は季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、多くの制限は解除される。この機会を逃さず、利用者集客に資する新たな取組を行って、利用促進に努力されたい。